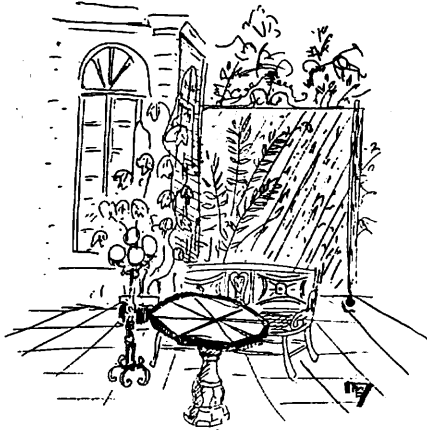


# 教育センターだより

第10号



## 墨をする

2、3年前、ある研究会の分科会で先生方と話し合った時、授業に出ていちばん困っていることを話し合おうということになった。いろいろな発言の中に、書写（毛筆）があった。「先生自身いちども筆をもったことがないし、教育を受けたこともない。書道塾に通ってがんばっているのだがどうもうまくいかない。努力はしているのだが悲しいことだ」ということだった。この発言が参会者の共感を得て、結局、センターに書写研修講座があるからそれに参加してみたらということに落ちついたように思うが、それを聞きながら「私もそのあとについて行こう」と思ったことだった。たしか旧制中学2年生に習字があった。それは忘れがたい思い出として、脳裏を去らない。当時私は草書体風？の自分の名まえを書くのが得意だった。習字が生徒に返された時、先生が言ったものだ。「中学2年生にもなって、自分の名まえもろくに書けない奴がいる。見ろ。これは最低だ」クラスの連中にも名まえが読めなかった。みんなは爆笑した。私はよく見もしないで、ひどいやつだと笑いころげていた。ひとりひとりに返されて最後の一枚。みんなにもどされたのに、もどっていないのは私ひとりだった。しょげた。私の自慢の草書体は誰にも読めない、いわば体の知れぬ悪筆にすぎなかった。マイッタ、マイッタ。以後ひたすら筆をおそれた。

| 目            | 次 |
|--------------|---|
| 墨をする         | 1 |
| 教育研究部        |   |
| 経営研究室        | 2 |
| 教科研究室        | 2 |
| 教育相談研究室      | 3 |
| 科学技術研究部      |   |
| 理科学研究室       | 3 |
| 技術家庭研究室      | 4 |
| 総務課調査統計係     | 4 |
| 随時研修講座の状況    | 5 |
| 長期研修を終えて     | 6 |
| 長期研修生（後期）の紹介 | 7 |
| 告知板          | 8 |

### 教育研究部長 小嶋敏夫

昭和46年度から小学校・中学校の先生方を対象に、国語科書写を充実させるため毛筆の実技講座がセンターでもたれてから3年めになる。私は都合をつけて参加することを決意した。その準備のため、5月1日から社の休憩時間に、墨をすること、筆にさわること、書くことの巧拙は功名誰かまた論ぜんで問題にしないことをモットーにした。墨をすり、筆にさわることを実行したが、書く回数は少なかった。自分の書いた字を見ると、食後の消化が悪くなるからである。

毛筆書写研修講座では、講師の先生が生徒の実態をふまえた上での実技指導は、懇切丁寧で、正しく、さわやかで、印象的で美しく、さすががしかった。紙数の都合で詳しく書けないことをおわびすると同時に、心から敬意と謝意を表し、今後ご指導を願いたい。

いつか、倉沢栄吉先生の講演を拝聴した時、黒板に大きく大の字を書かれ、「先生方は生徒を見る時、すべてが整っていないと満足されない。たとえば筆の入れ具合が良いとか、止めぐあいが良いとか、はじき方だけは素晴らしいとか、一つの字の一部で良いからその良さを発見してほめてやれる教育をやってもらえないものか」という意味のことを言われた。書写に関しての講演ではなかったが、味わい深いことばとして感銘を受けてから時がたつ。私はこのことばを反すうしていた。私は今後も墨をすりつづけたいと思う。

## 教育研究部

## 経営研究室

## 研修つれづれ記

- 「良薬口ににがし」のことわざがあるが、どんなに役にたつことでも、骨の折れるもの難解なものも敬遠され、耳に心地よいもの、自分のもつ既成観念に合致して緊張を引き起こさないもの、自分の欲望にマッチするものが無意識に選択受容される傾向があったとしたら大変なことですね。
- 人工衛星打ち上げシステムに寸分のくらいが生じたらその到達は期待できない、まことに科学の世界はきびしいものである。こと教育におろした場合どうだろうか、デューイの言をかりなら「学校を支配しているものは教師ではなく慣習である」といっている。こうなったら学校経営の現代化にはほど遠くなってしまいますね。
- 夕日の落ちた田沢の里で、新任教員83名が「友情と協力と情熱の火」を囲み、再会を誓い合いながら前・後期7日間の研修を終了した。  
子どもと共に登校し、下校した大曲小・中・高校での一日の全ぼう見学は意義深いものがあり、当該校に対し厚くお礼をのべるとともに、関係機関も、現場も組織も共に、洋々と広がる教育の若きホープの道程をふさぐことなく、あたたかく導いていきたい。先輩としての義務でもありますね。
- 「学校評価法」は希望研修講座の一つである、15名の受講者を予定していたところ93名の申し込み、それだけ学校評価の必要性が問われてきたあらわれであろう。8月には大曲市教委の学校経営研究会で、11月には能代、山本の教頭会の要請があった。  
自分の課題をもって真剣に研修にたちむかっているその姿はほんとうに美しいことですね。



—大曲小児童の創造性豊かな集会活動に魅了される—

## 教科研究室

## 師弟同行の姿

3年目を迎えた毛筆書写実技研修講座を、今年は県南は横手、県北は大館で地方開催し、中央地区は教育センターで7月下旬から9月中旬にわたって2日間の日程で実施された。

講座内容の概要を紹介すれば、漢字楷書では、基本点画の筆づかい、字形・点画の長短・方向、間、交わり筆順と字形、行書の基本では、点画の連続・変化・点画の省略、筆順の変化、折れと近道、ひらがなでは、2—3字の連綿、字配り、文字の大小等の毛筆書写の基礎的な技能の修得を中心としたものである。

実技担当講師は、県南は小松栄光・福田庸三・加藤秋蔵・長沼雅彦、県北は和田幸雄・赤石隆夫・金沢正司、中央は三浦禮治・菅原昭衛・岡部勇司・秋田善一の諸氏である。本県教育書道界では熟知の老練な指導者たちによる精力的で入念な教授は光彩を放っていた。それにも増して、謙虚で意欲的な受講態度は、その研修の成果を見事に結実させることになった。

特に県南会場は、気温38度を越す酷暑の中で、さながら土用稽古のきびしさにも形容される健闘ぶりを発揮した。「一日中筆を持ち続けたのは、生まれて始めての経験だ」と述懐する受講の先生方は、一日で60枚の半紙を使う練習量になった。講師の範書を見つめる真剣なまなざし、朱書きの添削を受けて神妙になる表情には、書写教育の指導のポイントをどん欲に吸収していかうとする旺盛な意欲と熱気に満ちているかのようであった。書いてみればよくわかるその上達ぶりに、驚嘆する講師の賞賛の声にも喜びの表情があった。

教育事務所の国語科担当指導主事の講義と、研究協議では、評価の問題、指導法の改善、書塾の問題など当面している書写教育の諸問題について、活発な質疑と明快な助言が交流する有意義な研究になったことも付言しておきたい。

この講座の特色である主体的な実技の研修は、「楽しい創造の喜び」を体験しながら、指導のコツを体得した自信を受講者にもたらした。短い日程の中にバラエティーに富んだ内容をもりこんだきびしい修練であったが、むしろ「修練のあとの楽しさ」を感じさせながら講座を終了することができたことは、受講の先生方の主体的な構えと指導陣の深い造けいと書写教育に対する愛情の深さが交響した師弟同行の姿を感じさせるものであった。

## ◆教育相談研究室◆



## ◆新設講座の実施概要と今後の展望◆

## (1) 小学校生徒指導研修講座

6月5日(火)～6月7日(木)までの3日間、生徒指導主任クラスの先生が18名の参加を得て実施された。これまで行なわれてきた中学校・高等学校の生徒指導研修講座、および特殊学校生徒指導研修講座にならって、全日程の半分は講義、あとの半分を演習・事例研究に充てたが、受講者の反応は、ほぼ良好という結果だった。なお、要望としては、心理検査演習をもっとふやしてほしいこと、事例研究資料の全員持参、生徒指導組織体制に関する講義を独立にもつことなどがあげられていたが、小学校における生徒指導の動向や課題といったものを端的に示唆しているものと思われ、次年度以降の講座にその主旨をじゅうぶん生かしていきたい。

なお、遠路受講においでになったかたがたの中で、宿泊所が付設されていることを知らなかったとするかたが数名おり、P.R不足を痛感したことである。

## (2) 臨床検査技術研修講座

8月6日(月)～8月7日(火)第1回、8月7日(火)～8月9日(木)第2回が実施された。知能検査、性格検査の技術研修に加えて、脳波測定技術の研修、障害児の観察法等、猛暑の中でみっちりわざをみがかれた。器材の関係で、第1回は15名(幼稚園・保育所)、第2回12名(小学校・特殊学校小学部)に限定せざるをえなかったが、受講者からも、この種の講座は、10名前後が限度であろうという感想がよせられている。実際子どもを使つての実技研修であれば…という要望も寄せられており、明年度以降の研究課題として検討してみたい。なお、検査法は一つにしばつたらという声もきかれたが、あわせて検討してみたい。

## 科学技術研究部

## 理 科 研 究 室

## 材料の準備を入念に

有はい乳種子の観察に好適なカキの種子が手にはいりやすい季節となった。来年にそなえて、このチャンスを見逃さず柿をモリモリ食べて、そのタネをストックしよう。子どものために、そして美容と健康のため。

また、カイコの飼育観察が普及してきたが、クワの葉を吟味してほしいもの。アメリシロ駆除剤の散布されたクワの葉をうっかり与えたため、子どもたちの飼っているカイコが全滅したという例を聞いている。

## 野外観察研修講座を終えて

中・高生物野外研修講座は昨年度より1泊ふえて2泊3日となったため、じっくり腰をすえて実施し、効果をあげることができた。本年は尻あがり天候が回復し、植生調査方法の研修、実習、考察とまとめ等を有意義に終えることができた。これには早朝4時に起床してデータ整理をし、参加者に提供して下さったある先生の尽力があったことを見逃してはなるまい。

地学の野外観察研修講座は小・中・高とも岩見三内方面を巡検地を選んだ。長年、男鹿巡検を実施してきたが、これをもとに岩見三内および県内各地域の地形・地質を対比しながら地層の連続性を追求することができた。

## 物・生の協力実る

高校生物の講座では、数年来行なってきた神経系に関する実験観察が、物理研究室との協力で神経電気生理的な現象をも観察・測定することができ、ひとくざりついた。そのひとつ、シンクロスコープによる神経の中の興奮の伝わり方の観察と伝導速度の測定にはかなりの反響があった。

## 各研修講座から

女教員理科研修講座で取りあげた「試薬の調製」は好評だった。何よりも大きな収穫は今までは他の先生に頼んでいた調製が自分でもやれそうだという自信を得たことであろう。

中学校理科研修講座でとりあげた「太陽電池による光エネルギーの力学的仕事への変換」は素子、装置、方法等がまだ十分普及していないためか、多大の関心をそそったようだ。

## ことしの天気実報

小学校天体観測研修講座(6月7日)雨、中学校同(8月8日)くもり、高校同(10月5日)快晴デシタ。オワリよければすべてよし。

技術家庭研究室

希望者対象の講座について

ねらいと内容

今年度から新たに技術・家庭科教材研修講座を設けた。先号にも紹介したが、この講座は明日の授業にすぐ役立つことをねらいとしており、希望者を対象としている。ことしは、「木工機械、工具の点検と操作」「金工機械、測定工具の点検と操作」(以上、男子向き)「ブラウスとスカートの縫製」「裁縫ミシンの機構模型製作」「回路計の原理と取り扱い方、TP製作」「着色料の検出および揚げ物の調理」(以上、女子向き)を取りあげた。

アンケートから

「安全教育が強調されている反面、現場にもどると、工作機械の使用法に力点がおかれ、ややもすると安全性がないがしろになる時がある。この点、今回の講座は良い警鐘となった」「……、明日から自分で作ったバイトで授業ができるようにあまり時間をおかないうちに復習したいと考えている」「……なぜそのようにするのかという、うらづけのご指導、またミシンの

もつ縫合上の性質利用のことなど、納得のいくご指導……」「……生徒の喜んでくれる顔を考えると次々に教具をセンターからうばっていききたい気持です」

「……そのラベルの解釈のうらづけの一つ、色素検出実験は一度勉強してみたいと思っていたものでした。必修クラブの二学期の計画の一つです」

お 願 い

この講座は、これからも日常の学習指導の際に問題点となっているようなことを取りあげ、アンケート等を参考にして、できるだけご要望に添うよう改善していきたいと考えている。年度当初学校に配布される研修講座一覧表に“希望者”制として内容等記載されるので、諸先生の積極的な参加をお願いしたい。



「学校保健調査」の結果から

— 長期欠席者は腎臓病が多い — 調査統計係

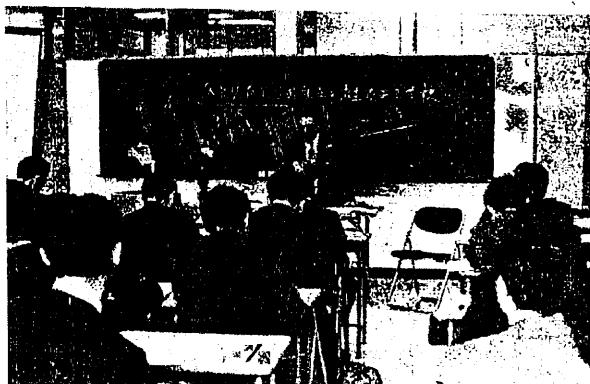
保健体育課と共同で行なった標記調査から、昭和47年度における本県の長期欠席者(50日以上)のうち、病気による欠席者を病名別にその内容をみると下記の表のとおりである。これで見ると、小・中学校では腎臓病がもっとも多く、次いで骨折と気管支の病気が多くなっており、高校(全日制)では精神病がもっとも多く、次いで腎臓病・肺結核が多くなっている。

学校種別・病名別、長期欠席者数

| 病 名                                   | 小 学 校 |    |     | 中 学 校 |    |     | 高等学校(全日制) |    |    | 高等学校(定時制) |   |   |
|---------------------------------------|-------|----|-----|-------|----|-----|-----------|----|----|-----------|---|---|
|                                       | 男     | 女  | 計   | 男     | 女  | 計   | 男         | 女  | 計  | 男         | 女 | 計 |
| 心 臓 病                                 | 7     | 6  | 13  | 2     | 8  | 10  | 1         | —  | 1  | —         | — | — |
| 腎 臓 病                                 | 23    | 10 | 33  | 16    | 7  | 23  | 9         | 5  | 14 | 1         | — | 1 |
| 肝 臓 病                                 | 2     | 1  | 3   | 2     | 2  | 4   | 4         | 1  | 5  | —         | 2 | 2 |
| 胃 腸 病                                 | 3     | —  | 3   | 10    | 3  | 13  | 5         | 1  | 6  | 2         | — | 2 |
| 血管・血液の病気                              | 7     | 4  | 11  | 3     | 4  | 7   | 1         | 1  | 2  | —         | — | — |
| 気管支の病気                                | 9     | 7  | 16  | 2     | —  | 2   | 1         | 1  | 2  | —         | — | — |
| 精神病(外因性 <del>肉</del> 因 <del>性</del> ) | 2     | 2  | 4   | 10    | 10 | 20  | 11        | 12 | 23 | —         | — | — |
| 骨 折                                   | 16    | 11 | 27  | 21    | 2  | 23  | 4         | 1  | 5  | 1         | — | 1 |
| 肺 結 核                                 | 1     | 1  | 2   | —     | —  | —   | 5         | 3  | 8  | —         | — | — |
| リ ウ マ チ                               | 6     | 2  | 8   | 4     | 3  | 7   | —         | —  | —  | —         | — | — |
| へ ル ニ ア                               | —     | —  | —   | 1     | 1  | 2   | 5         | 1  | 6  | 1         | 1 | 2 |
| そ の 他                                 | 38    | 25 | 63  | 27    | 35 | 62  | 11        | 10 | 21 | —         | 1 | 1 |
| 計                                     | 114   | 69 | 183 | 98    | 75 | 173 | 57        | 36 | 93 | 5         | 4 | 9 |

# 本年度・随時研修講座の状況

「昭和48年度 秋田県教育センター研修講座一覧」の欄外に（注）がある。「上記の研修講座以外に、地区または学校（園）等の単位で、教育センターにおいて研修を希望する向きは、……来所して研修することができる。」というものである。この趣旨にそって行なわれる研修を「随時研修講座」と名付けているが、本年度は、昨年に引き続き盛況である。以下、その状況について。



**5月19日** 教育工学研究会20名、アナライザの研修（午後、2時間）

**6月29日、30日** 仙北郡角館町白岩小学校9名。研修は楽しくみのりあるものに（椎名校長記）

「数教科を一度に同じ場所で全校職員が研修できる所は教育センターよりないと思いたち、直ちに実行に移したのが6月29日、30日でした。（校長を含め9名の全職員参加）第1日目、学校発7時半、途中ソニー科学賞の仙北南小、読売賞の大川西根小、しないふり運動の角間川小を歴訪研修し1時センター着。私たちの学校は、情操教育の指定校として、音、図、理の領域で研究している関係で実技を中心に指導をうけた。音楽（エレクトーンの奏法3名）、図工（ねん土細工・全員）理科（実験に必要な教具のくふう、2名）、センター宿泊所に1泊し、第2日目の午前も上記内容で研修した。研修内容は直ちに毎日の実践に役だった。

**7月9日～13日** 鹿角郡小坂町小中教員5名（1班）（4泊5日）

| 9日  | 10日 | 11日 | 12日     | 13日     |
|-----|-----|-----|---------|---------|
| OHP | VTR | A N | 旭川小学校参観 | 山谷小学校参観 |

**8月3日、4日** 大曲市小・中教員20名  
3日 学校経営・教育相談 4日 教育機器

**8月8日、9日** 男鹿市小中教員20名  
（主として教育機器の活用について）

**8月17日** 本荘南中学校英語科教員5名（LL）

**9月10日～14日** 鹿角郡小坂町小中教員6名（2班）  
（研修内容は1班に同じ）

**9月18日～20日** 鹿角市小中教員20名  
（研修内容はOHP、AN、VTR）

・…私ども20名は3日間にわたり、「教育機器導入の基礎となる考え方、機器の操作、演習についての研修会」に参加した。……教育機器の充実や学習指導への利用が盛んになってきた昨今だが、現状では少なからず問題をかかえている。このたびの研修に参加して、多少なりとも「学校教育の現代化や、学校教育の課題と教育工学の果たす役割」というものを再認識させられた。TPの作成などには、もっと時間がほしかった。教育のシステム化が叫ばれている中で、いかにして現場で組織的に実践するかを与えられた課題として受けとめた。（大湯小 大里隆一）

・……3日間で得たことは、「教育の現代化」は、個々のこどもを伸ばすことであるということ。そのためにチームティーチングや、教材の分析の大切さ、資料、機器の活用が必要であるということ。教材を分析できなければTP一枚も作れないということを知った。……私たちが生徒になって、授業の実践を展開していただきたかった…（十和田中赤坂富美子）

**9月26日** 南秋田郡英語研究会15名（LL）

**10月30日、31日** 雄勝郡羽後町仙道小学校 5名  
（主として教育機器の研修）

**11月5日～8日** 大館市小中教員 4名  
（主として教育機器の研修）

以上の他に、県指導課の事業である「視聴覚教育指導者養成研修会」が10月、11月、12月各3日間、1回30名の予定で開催される。また、秋田県生涯教育推進本部の事業として、「県職員のための特別学習講座」  
①コンピュータ講座（1回） ②英会話講座（2回）  
③油絵講座（1回） ④器楽講座（1回）が、当センターで開催された。実人員は250名を越えた。

## 長期研修をおえて

### 昭和48年度 長期研修生（前期）の感想から

阿賀小学校 教諭 小山 薫

過ぎ去ってみるとすべて懐しい。

入所当時は緊張の連続であった。しかし、研修生担当の先生や所内の先生方の厳しさの中にあるまろやかな人柄にふれているうちにしだいに落ち着きを取りもどすことができた。

研修の構想が決定すると、明けても暮れてもリズムリズム。頭の中はリズムだらけ。突然天井の一点を見つめて手拍子、腕組みして足拍子、鉛筆で机上の茶わんをわれんばかりに打ってみたり、檻の中の熊のようにうろうろ歩きまわったり、トイレの中で「タンタカ」と音を出しておばさんに「サスガ」とホメられたり、全く悪戦苦闘、試行錯誤の毎日だった。

所の生活にも慣れ、いくらか先の見通しもついたら、夜のネオンのまぶしい方向に散策を試みた。赤い花、青い花にひらひら舞う蝶は実に美しくすばらしく感じられた。時には蝶に見とれて門限を忘れ、下宿からしめ出されたこともあった。

中間報告の会、所長、部長先生をはじめ諸先生を前にしてのリズムの実技研修、今思い出して冷汗ほとばしるの境地。しかし、何の抵抗も示さず笑顔で協力に応じてくれたときは涙が出るほど感激した。

今般は幸い指導の先生に恵まれ、どうにかかっこうがついたがほんとうの仕事はこれからである。

現場に帰って1週間目にかぜをひいた。生活のリズムが狂ったせいかな。十日近くにもなるがまだなおらない。

城南中学校 教諭 竹田 紋子

うららかな春日和、胸に折りたたんだハンカチこそなかったが、緊張した面もちの新入生8人、どの顔もどの顔もきりっとしていて賢そうだ。担任の誘導で影のうつる廊下を式場へ。

あれ以来5か月、心を開いた学級会、級長のさりげなく語る話のおもしろさ、各室の談話会、そして八手会の発足などを経過し晴れて修了の運び。

前日はリハーサル「ハイ、3歩前に出て」「左手から先に」「そこで深くおじぎして」などと。今回の生徒はなかなかまかせておしまいにはどっちが教わる人なのかわからない。生徒の方がしゃべっては決め、決め

ては行動するしまつ。先生方は「そうさそうさ、それがいいな」と自主学習の展開。本末転倒とばかり大笑。そろそろ先生である生徒の先生気分がでてきたようだ。

さて翌9月29日は修了式。正面のたれ幕やテーブルには八手の青葉が飾られていた。みんな大変なおめかしで出勤、なかには、ジャンプの前のステップだとか、一大決心をする時だとかいって髪をばっさりと切った人も。わたしの場合母が「だいぶふまじめだったから卒業証書もらえないだろう」などとばかにする。「きのう、リハーサルで点呼されたからだいじょうぶ」などと笑った。

さあ、あしたから静かな学習の場センターに別れをつけ、ベルタイマーの音の響きと、ざわめきたつ千人の若者のいる古巣へと帰るのだ。記念写真はうまくとれているだろうか心配する。

でもほんとうに楽しく充実した日々だった。いろんな角度からいろんなことを学びとらせていただいた。「来てよかった」「後期もいたいな」などと口口にいう。八手の樹よ、いつまでも青青とセンターの前庭に根をはっていてくださいな。

角館高等学校 教諭 高橋 明男

長期研修生としてセンターにはいる前は、正直なところ不安感をいだいていた。ところがいざ入所してみると、受け入れ体制がよく、家庭的なふんい気のもとでわれわれをセンターの一員として扱っていただき、安定した気持ちで研修を進めることができた。

研修のはじめに、実験材料に使うカイコとショウジョウバエの飼育をやった。ところがショウジョウバエは実験直前に予期しない事故で一晩のうちに全滅してしまった。カイコの飼育ではクワの葉の採集にもっとも気をつかった。これについては多くのかたがたのご協力を得て、支障なく研究を進めることができ、感謝に堪えない。

研修の内容については高度な研究でなく、すぐ現場で役だつもの、あるいは本人の未経験なものなどについて純然たる意味での「研修」ということであった。しかし、報告会があり、集録にまとめられるとあれば何か新しいくふう・発見を期待されるようで、高度の内容の研究でなければ申しわけない気がした。

テーマ以外のことも研修したかったが、それには五か月の研修期間は短く、できればもっとゆとりのある期間がほしかった。また、現場との関係からも区切のよい時期に交替したいものである。

毎日の朝の打ち合せ会、指導主事の先生との語り合い、研修講座、旅行等の中から学校生活では得られない貴重な指導助言をいただき、参考になった。また前期研修生8名は小・中・高校、全県各地域、男女と混っていたが、和やかに語り合い協力し、チームワークよく研修を終えることができた。

ふりかえてみると、研修テーマは一つにしぼり、もっといろいろな部、課、室の先生方と積極的に交流しておれば、これからの研究の方向づけが得られるとともに、研修テーマ・報告に現われない「何か」をより多く吸収することができたのではなかったかと思う。

#### 盲学校 教諭 柏谷 学

正面玄関の上にはちょうどおでこのように突き出ているのが教育相談研究室である。その窓ぎわにわたしの机があった。研究室内では一等地である。疲れるとわたしは目をあげて外を見た。

国道を走る車の流れが目につく。その流れにも季節感はでている。春遠足隊のバスが続く。その窓辺に並んだ頭を見ているとふと現場を思い出す。八月、竿燈祭のころは旅行団を乗せた見なれない色彩のバスがはっきりなしに通る。時にはサイレンを鳴らしたパトカーやピッポーの救急車が走る。すると研究室は落ち着かなくなる。そんな時にわたしはどっちの方向へ行っただとか情報提供者になるのだ。

研修期間中は毎日のように講座が開かれていた。正門に入って来る先生たちの姿を見ていると、緊張しながらやって来ていた自分の姿を思い出す。講座によって先生たちにもタイプがある。きょうはいやにどっしりとしたおような顔が、と思うと経営関係の講座だったり、ははんとうなずく。目を楽しませてくれるカラフルな姿が多い時は女教員ののと、すぐ講座名が浮かんでくる。こんなことでひそかに愉快がっているのは不謹慎というべきだろうが。

4時過ぎ、南高校のテニスコートから白球を追う声が聞えてくる。ひときわかん高い声の中にまじっている。その声にひかれて窓ぎわに立ってこられたK先生と、うん、あの生徒か、いかにもまじめそうで、めんこい顔していることと話し合う。その声が聞こえてこない日はからだでも悪くしたのでは、と心配になる

このようにして1日は終る。と書くと浮かれてばかりいるようだがこれは研修の疲れをいやしてくれたひとこまであることをわたしの名譽のためにつけ加えておきたい。

## 昭和48年度 長期研修生（後期）の紹介

10月1日（月）昭和48年度後期の長期研修生8名を迎えた。すでに10月19・20日にはテーマの構想検討会も終り、順調な研修を進めている。その成果は2月15日の研修報告会で発表することになっている。なお修了式は2月28日を予定している。

### 研 修 テ ー マ

- 学校経営と情報処理の一考察
  - 教育情報の整理と活用を中心に —
    - 由利郡象潟町立象潟中学校 板垣 憲三
    - 能代市立湊城第一小学校 柴田 哲雄
    - (経営研究室)
- 高校地理Bにおいて地理的思考力を
  - 高めるための教材の作成とその検討
    - 地図学習におけるT.P教材を中心として —
    - 県立秋田工業高等学校 佐藤 文義
    - (教科研究室)
- Y-G検査に表われた児童の性格特性に
  - 関する研究
    - 本荘市立鶴舞小学校 佐々木 武
    - (教育相談研究室)
- せん断のしくみについて
  - 板金のせん断による切断作用を中心として —
  - 大館市立東中学校 成田 富蔵
  - (技術家庭研究室)
- 木材組織の顕微鏡的構造の観察
  - 湯沢市立湯沢北中学校 山 影 平
  - (技術家庭研究室)
- 「力と運動」の指導について
  - 雄勝郡羽後町立羽後中学校 高橋 敏雄
  - (理科研究室)
- 「硝酸銀より銀の原子量を求める」に
  - ついでにの考察
    - 総合化学における課題研究の一例として —
    - 県立横手高等学校 小田島 鉄男
    - (理科研究室)

# 告 知 板

## 研究図書、資料の紹介

当教育センターでは、国立をはじめ各都道府県の教育センター、研究所、各大学、県内小・中・高校その他教育関係機関から寄せられた貴重な教育研究資料の活用を図って、件名目録第Ⅴ集まで配布しました。それら資料は9月現在、研究主題別では下表のようになっています。主題別総点数 6,938点。

| 主 題       | 点 数     |               | 保 健 体 育     | 88  |
|-----------|---------|---------------|-------------|-----|
| 教 育 一 般   | 247     |               | 技 術・家 庭     | 128 |
| 教育原理・教育思想 | 53      |               | 産 業         | 62  |
| 各国の教育・教育史 | 82      |               | 外 国 語       | 149 |
| 教育行財政     | 171     |               | 道 徳         | 180 |
| 学校経営・管理   | 261     |               | 特 別 活 動     | 181 |
| 教育内容・教育方法 | 1224    | 幼児・初等・中等・高等教育 |             | 145 |
| 教 科       | 国 語     | 407           | 特 殊 教 育     | 221 |
|           | 社 会     | 250           | 教育調査法・教育統計法 | 171 |
|           | 算 数・数 学 | 240           | 教 育 と 社 会   | 453 |
|           | 理 科     | 1516          | 社 会 教 育     | 326 |
|           | 芸 術     | 116           | 大 学 紀 要     | 267 |

図書約 3,500冊。教育雑誌等定刊誌40種あります。現在のところ図書・資料の所外貸し出しはいたしておりませんが、教育関係に携わっている方々のために閲覧室を開放しておりますのでご活用ください。

なお、全国教育研究所連盟編の新刊図書の主なものも次に紹介しておきます。(購入を希望される向きは当教育センターにご照会ください。)

### 1. 研究報告集第23次年報(48年度)

特集 授業研究の方法

### 2. ティーム・ティーチングの展開

教授組織改善のためのガイドブック

### 3. 学校経営の構造と機能

### 4. 知恵おくれの子どもの実態と教育

### 5. 算数・数学教育現代化の指針

「関数的な考え」の指導と創造

### 学習指導の近代化シリーズ

#### 1. 学習指導近代化の課題

— 教師の学習指導観を通して —

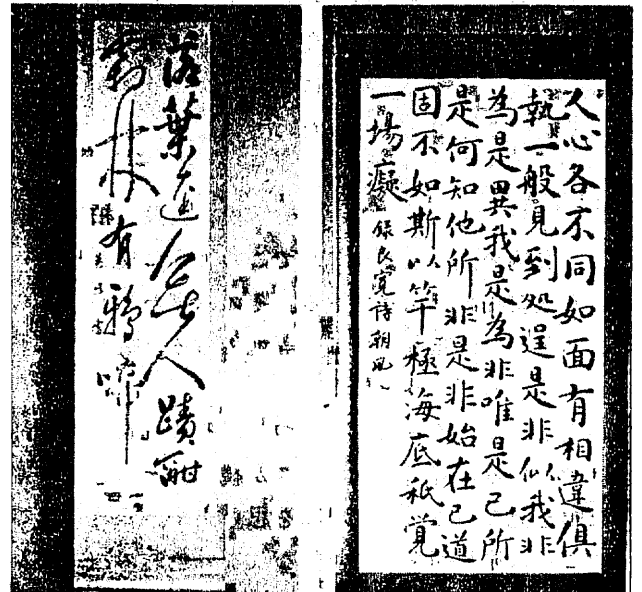
#### 2. 個別指導の研究

— プログラム学習方式を中心として —

#### 3. 一斉指導の改善

## ご鑑賞ください

当センター宿泊所の宿泊料金は1泊3食つき 900円ときわめてやすい。このことは人口に膾炙しているようだが、各室の床の間に掲げてあるすばらしい作品についてはあまり知られていないのでおりにふれ紹介していきたい。



### 作者紹介

良寛詩

三浦 朝風 (秋田市立秋田南中学校長

三浦 禮治氏)

落葉径

伊藤 英峰 (大館市立城西小学校教頭

伊藤 勇一氏)

### 編 集 後 期

遠望される太平山の紅葉も今年はあまり鮮やかではないように思えます。10月は時雨なんというものでなく雨また雨でさんざんでした。

研修講座現在まで75講座ほど終了しました。それと随時研修講座の終了分の報告を中心に編集してみました。

### 教育センターだより 第10号

発行年月日 昭和48年11月15日

編集発行者 秋田県教育センター

秋田市仁井田字潟中島 297の11